

日本における令和5年度の人権啓発重点目標

『誰か』のこと じゃない。



誰もが外見で差別を受けない社会に

「ルッキズム（外見至上主義）」という言葉聞いたことはありますか？これは、字の通り、見た目が重要であり、そこに人としての価値があるのだ、と考えることを指します。ところで、次の話を聞いて何を感じますか？



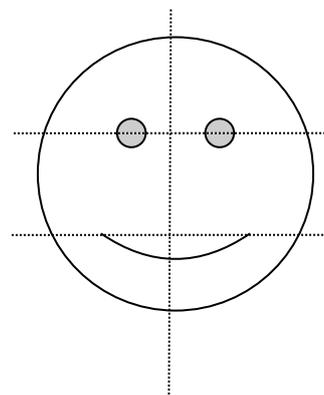
アフリカのモーリタニアという国では、女の子が生まれると毎日たくさんの牛乳を飲ませるのだそうです。そしてなんと！！『太らせる塾』があるそうです。いったいなぜでしょう？それは、太っている人が美しいという考え方（文化）があるからなのだそうです。

文化はそれぞれ国や民族によって違って構わないし、互いに尊重すべきものです。したがって、当然否定もしませんが、この話を聞いて、「体に無理をかけてでも外見を良くしようとする」ということが、おかしいと感じた人もいたのではないのでしょうか？しかし、同様に「外見を気にして、体に無理をかけてでもやせようとする」（ダイエット）ということも同じようにおかしいことではないか？と思った人もいたのではないのでしょうか？

そもそも外見で人を判断したり、優劣を決めようとする考え（ルッキズム）がその社会になれば、誰もが無理をせず毎日暮らしを暮らしていけるのです。今の世界は「多様性」を認める社会になりつつあり、外見やスタイルに劣等感や優越感を持たず、みんなが自分らしく生きていける社会づくりを模索^{もさく}しているところなのです。

心理学・脳神経科学の視点からとらえると、人間は「平均的」で「左右対称な顔」を美しいと判断するとの統計があります。平均や対称からずれると、脳が相手を健康的な面で問題があるのとらえてしまう、というのです。これは人としての本能の一部で、人という動物の子孫をより繁栄させるための生存戦略と考えられるわけです。

しかし、「子孫繁栄」という脳の指令にだけ従って、相手を認めるかどうか、相手の話をちゃんと聞くかどうかを決めるというのでは、進化を続けてきた人間としてはおかしいですね。考え方や見方を変え、みんなが生きやすい社会を作る方が、本当の進歩と言えるのではないのでしょうか。



左右対称は美しい？